大宮駅グランドセントラル
ステーション化構想［案］について

さいたま市

取組内容の全体イメージ図

鳥瞰イメージ図　（上空から俯瞰した視点）

（地図データ：google

※パース図は、確定しているものではありません。デザインの詳細等についても、今後検討します。

首都圏広域地方計画

大宮に求められている「運命の10年」コアプログラム

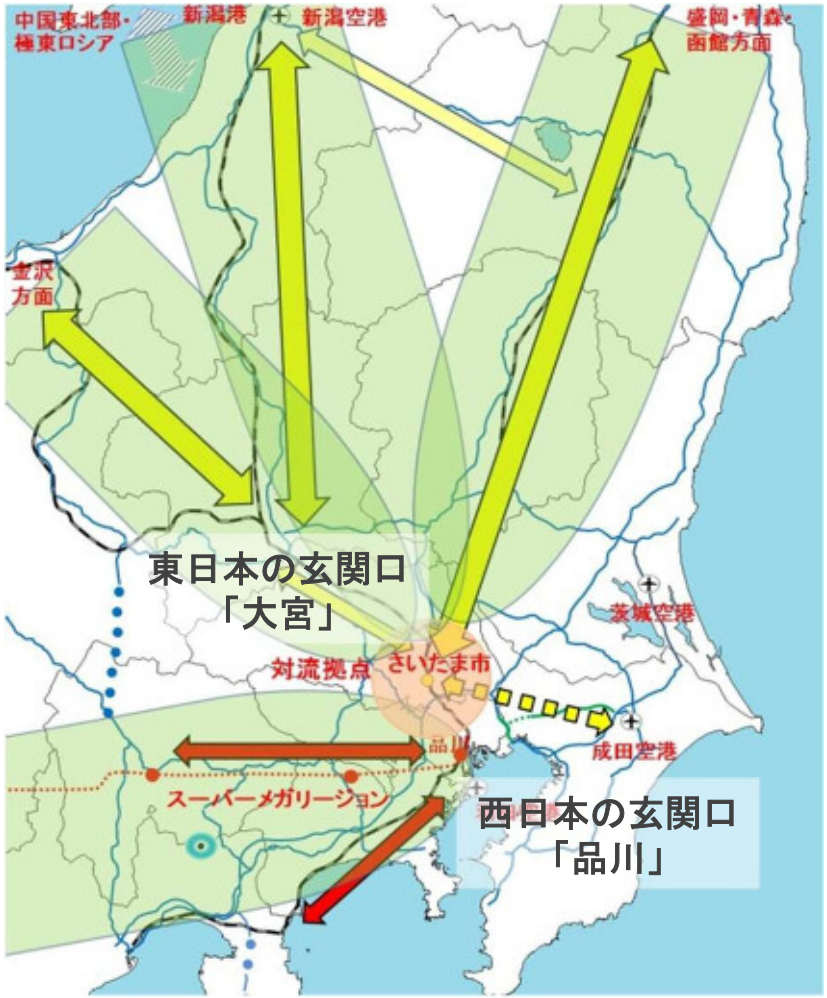
東北圏・北陸圏・北海道連結
首都圏対流拠点の創出PJ

西日本との玄関口となる「品川」と並び、**東日本の玄関口機能を果たす**とともに、首都直下地震の発災時には**首都圏の機能をバックアップ**するための最前線となる。このため、東日本のネットワークの結節点として連携・交流機能の集積・強化を図るとともに、災害時のバックアップ拠点機能の強化を図る。

【具体的取組内容】

- 国際的な結節機能の充実
- 対流拠点機能の集積強化
- 災害時のバックアップ拠点機能の強化
- 関連インフラの整備等

東日本玄関口創出のイメージ



※プロジェクトのイメージを示したものです。

目的と位置づけ

概要版P1

さいたま市

首都圏広域地方計画

大宮駅周辺地域戦略ビジョン

大宮駅グランドセントラルステーション化構想

＜目的＞『首都圏広域地方計画』で重要視している眼前の「運命の10年」を逃すことなく、駅周辺街区のまちづくり、交通基盤整備、及び駅機能の高度化を三位一体で進めることにより、東日本の玄関口である大宮、ひいては本市のプレゼンスを飛躍的に向上させ、日本の誇るべき都市としての地位を確立させていくことを目的に作成する

整備方針

取組内容と実現のための方策（具体的施策）

＜役割＞市民・事業者・行政の共通の指針

個別の整備計画

大宮グランドセントラルステーション推進会議

大宮グランドセントラルステーション推進会議（GCS推進会議）

【5回開催】

基盤整備推進部会
【10回開催】

まちづくり推進部会
【8回開催】

↑オープン会議の様子

↑まちづくり推進部会
模型を使った議論の様子

整備方針

概要版P2

広域交通
アクセス

公共交通の
結節点

歴史や文化を感じる
多彩な地域資源

身近な自然・緑

「東日本の玄関口」として
東日本全体の発展を牽引

東京一極集中に伴う
日本経済の災害リスク軽減
災害時のバックアップ機能
を果たす

これからの
働き方やライフスタイルを
先導・提案し、市域全域に
波及させる

選ばれる
ポテンシャル

強靭性

整備方針

整備方針

1．ビジネス機能を集積

2．対流拠点機能を強化

3．商都大宮を再生

4．上質な住環境を地域で育成

5．交通結節機能の充実

6．回遊機能を強化

7．自動車交通を抑制

8．風格ある駅前景観を形成

9．強靭性を備えたまちづくり

- 都市機能
- 歩行者ネットワーク
- 駅前空間
- 道路ネットワーク
- 駅機能

取組内容 ≪1. 都市機能≫

概要版P4

①東日本の交流拠点に相応しい多様な都市機能の導入

○ビジネス：北海道、東北、上信越、北陸をはじめとした各都市・各地域との交流・連携を強化し、ビジネスの新拠点を形成

○商業機能：大宮に訪れたくなる話題性と集客性を備えたコト消費型機能を導入

○住宅機能：駅周辺のまちと連携しながら多様な世代がバランス良くミックスされた住宅を確保

②都市機能誘導方策の活用

○都市再生特別地区などの都市計画制度を積極的に活用

○企業誘致活動を更に推進

取組内容 ≪1. 都市機能≫

概要版P4

③大宮の個性、風格と品格を醸し出す景観の形成

○氷川の杜、見沼田んぼ等の豊かな自然環境を感じさせる緑化やデザインルールの構築

○建物デザインの統一化や無電柱化等の推進

④環境負荷の低減に向けた先進的な取り組み

○再生可能エネルギーや省エネルギーシステム、開発街区の連携による地域エネルギーシステムを導入

⑤大規模災害を想定した防災まちづくり

○市街地開発事業により市街地を更新

○BCP（事業継続計画）を支える、災害に強い建物への更新や設備を導入

○災害に強い都市「大宮セーフティバックアップシティ」を実現

○地区間の連携・分担による防災対応機能を強化

取組内容　≪2. 歩行者ネットワーク≫

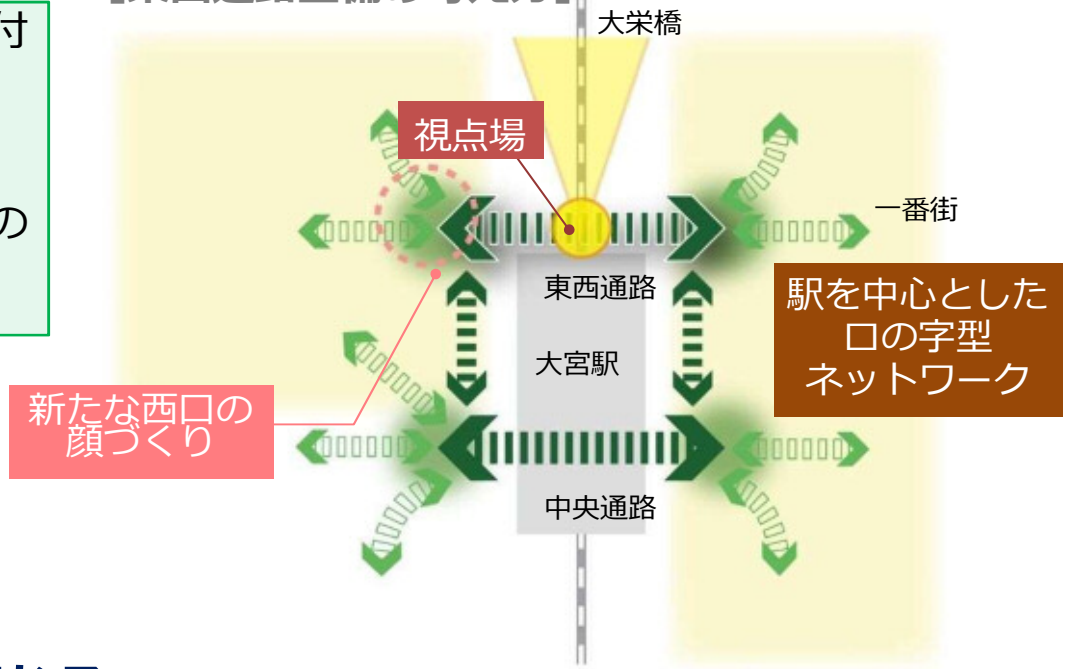
概要版P5

①駅東西を結ぶ新たな東西軸の整備

○視点場等整備効果を高めるための付加機能を確保

○西口デッキネットワークとの接続、及び新たな西口の顔づくりや歩行者の溜まり空間を確保　等

［東西通路整備の考え方］



②個性ある路面店や飲食店が連なる「賑わい交流軸」の形成

○駅から一番街、一の宮通り、氷川参道などを結びつけ、沿道に並ぶ高感度な路面店や飲食店から賑わいを感じる歩行者軸を形成

○沿道空間の使い方やデザインルールを構築

取組内容　≪2. 歩行者ネットワーク≫

［東西通路の視点場から大栄橋を望むイメージ］

※パース図は、確定しているものではありません。デザインの詳細等についても、今後検討します。

取組内容　≪2. 歩行者ネットワーク≫

概要版P6

③大宮を象徴し快適に歩ける「シンボル都市軸」の形成

○駅に直結するシンボリックで快適な歩行者軸を形成（中央通り）

○「駅とまちとの結節点」に、まちを一望する視点場や駅とまちをつなげる縦動線を確保

○風格と品格を備えた道路の緑化の推進

④路地空間の界隈性を意識した開発の促進

○開発街区においても路地の雰囲気を感じることのできる空間を創出

○歩行者ネットワークの結節点に辻空間を確保

取組内容　≪2. 歩行者ネットワーク≫

概要版P6

■駅南側から駅前空間を望む

※パース図は、確定しているものではありません。デザインの詳細等についても、今後検討します。

①多様な交流を促す交流広場の新設整備

○東日本の企業や団体等、地域住民や地元商店街等が祭り・イベント等で活用できる交流広場

○大規模災害等の一時避難に対応できる広場空間

取組内容　≪3. 駅前空間≫

概要版P6

■銀座通り沿いの交流広場を望む

※パース図は、確定しているものではありません。デザインの詳細等についても、今後検討します。

②広域交通結節点に相応しい交通広場の再整備

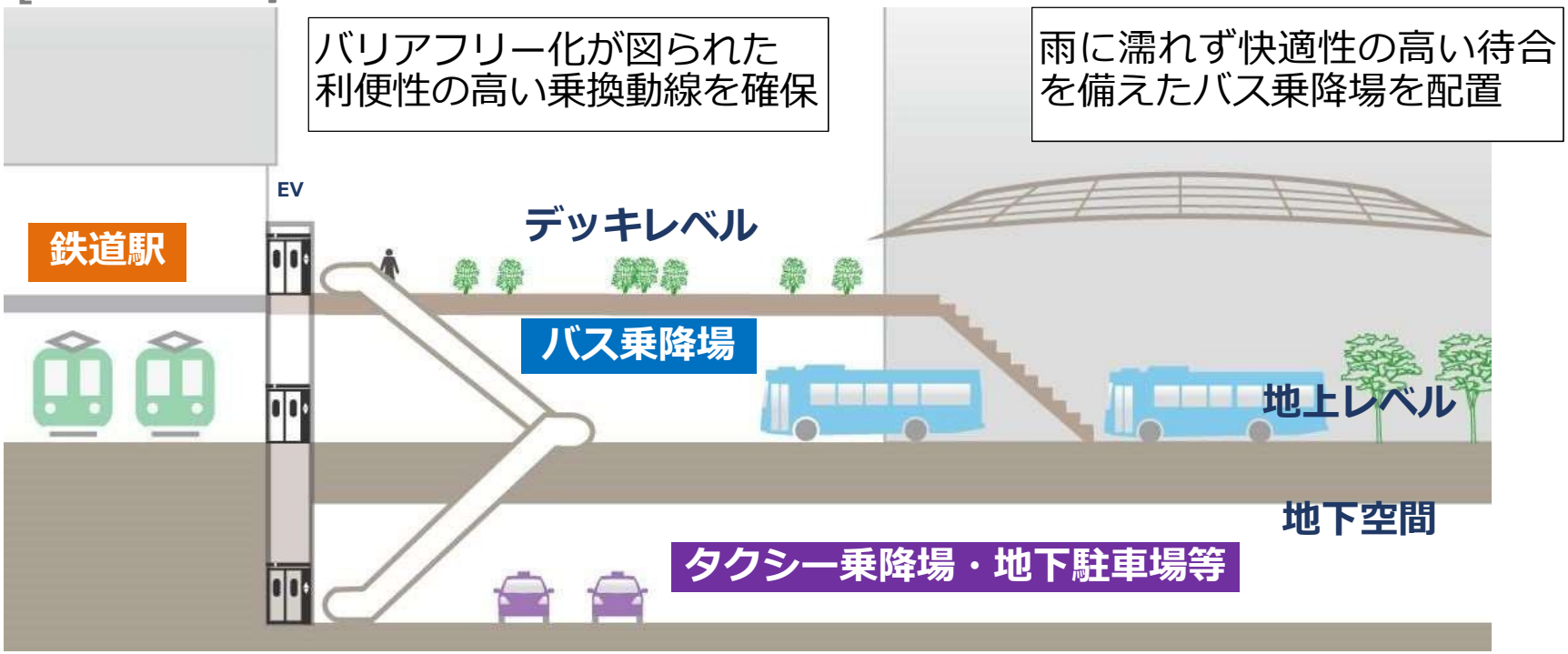
○地下空間の活用等も視野に入れたコンパクトでも利用しやすい交通広場

○案内情報の提供や、雨にも濡れない屋根等を備えた交通広場

○駅前空間の外縁部に一般車のアクセス動線や乗降場を確保

○空港連絡バスの乗り入れへの対応や将来性を踏まえた多様な交通機能の導入にも留意

[整備イメージ]



取組内容 ≪3. 駅前空間≫

概要版P7

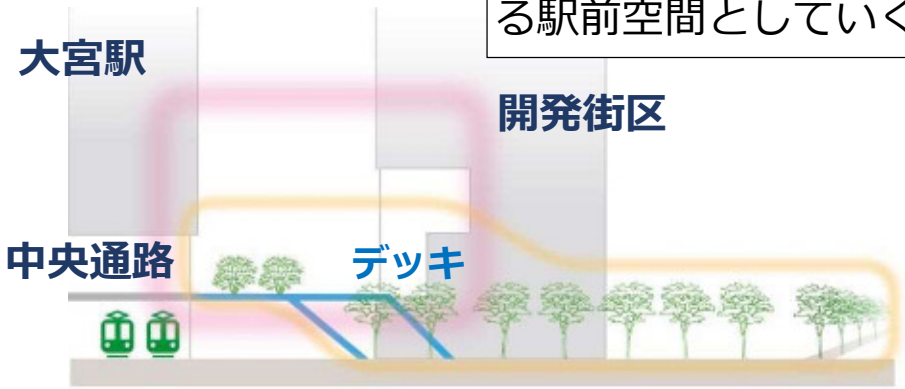
③駅前空間の一体性を高める顔づくり

○歩行者の利便性の向上と開発街区等の市場価値を高めるため、駅と街区をつなぐデッキを整備

○空間的・視覚的な統一感があり、氷川の杜を感じる豊かな緑を確保

[駅前空間の考え方]

視覚的・空間的に一体性のある駅前空間としていく



緑で地上レベルと立体的につなげていく

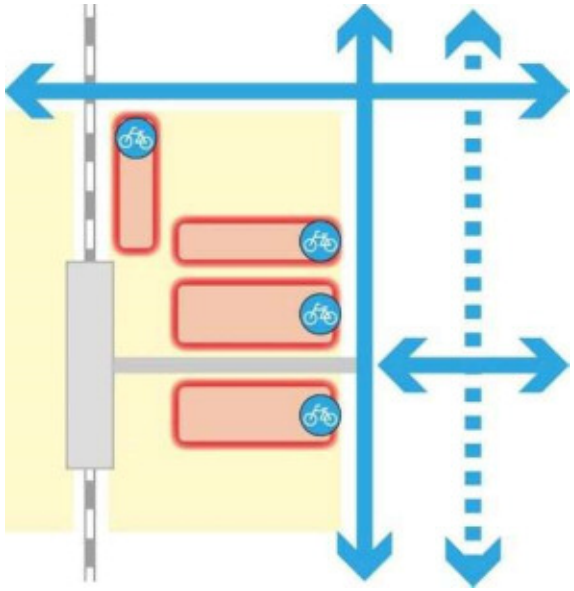
④自転車利用環境の充実

○駅へのアクセス利便性を確保しつつ、歩きやすい歩行環境を両立させるため、自転車駐車場をターミナル街区外縁部へ適正に配置

○自転車レーンや自転車ナビマーク等による自転車ネットワークを整備

○民間駐輪場の確保やコミュニティサイクルの利用を促進

[自転車利用環境の考え方]



取組内容 ≪4. 道路ネットワーク≫

概要版P8

①道路ネットワークの強化・拡充

○自動車交通の増加に伴う駅周辺の交通負荷軽減を図るため、既存道路の地下空間の活用も視野に入れた道路ネットワークを形成及び強化・拡充

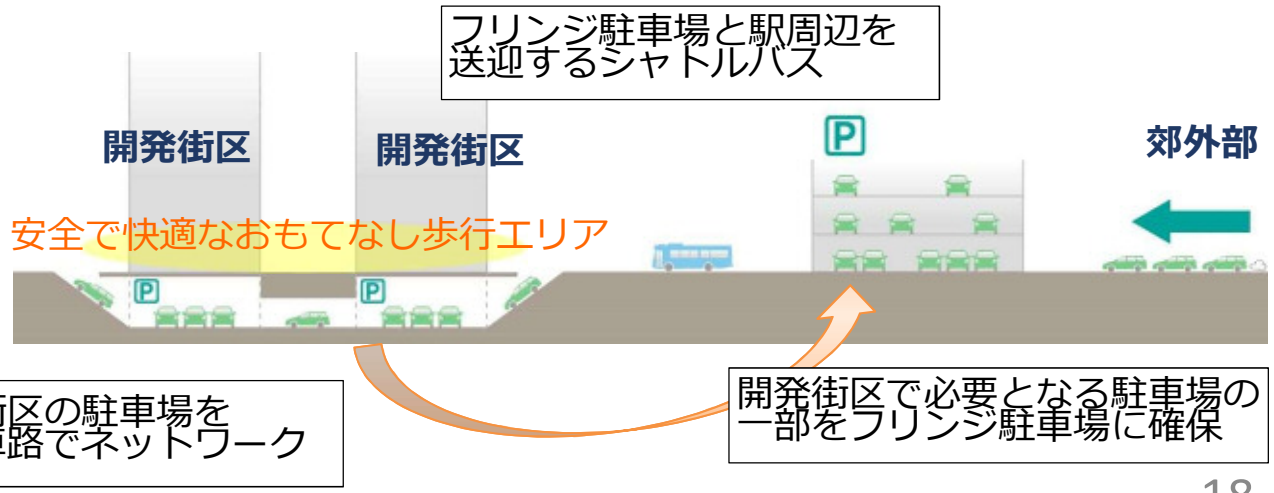
［地下空間を活用した道路の考え方］

既存道路の地下空間を活用し道路を整備 → 地上部の通過交通が減少し、おもてなし歩行エリアの形成に寄与

②交通需要マネジメントの展開

○道路整備に加えて賢く道路を使うため、駅周辺の自動車交通の流入規制・迂回誘導等、道路整備の進捗状況に応じた交通需要マネジメントを展開

［交通需要マネジメントの展開の考え方］

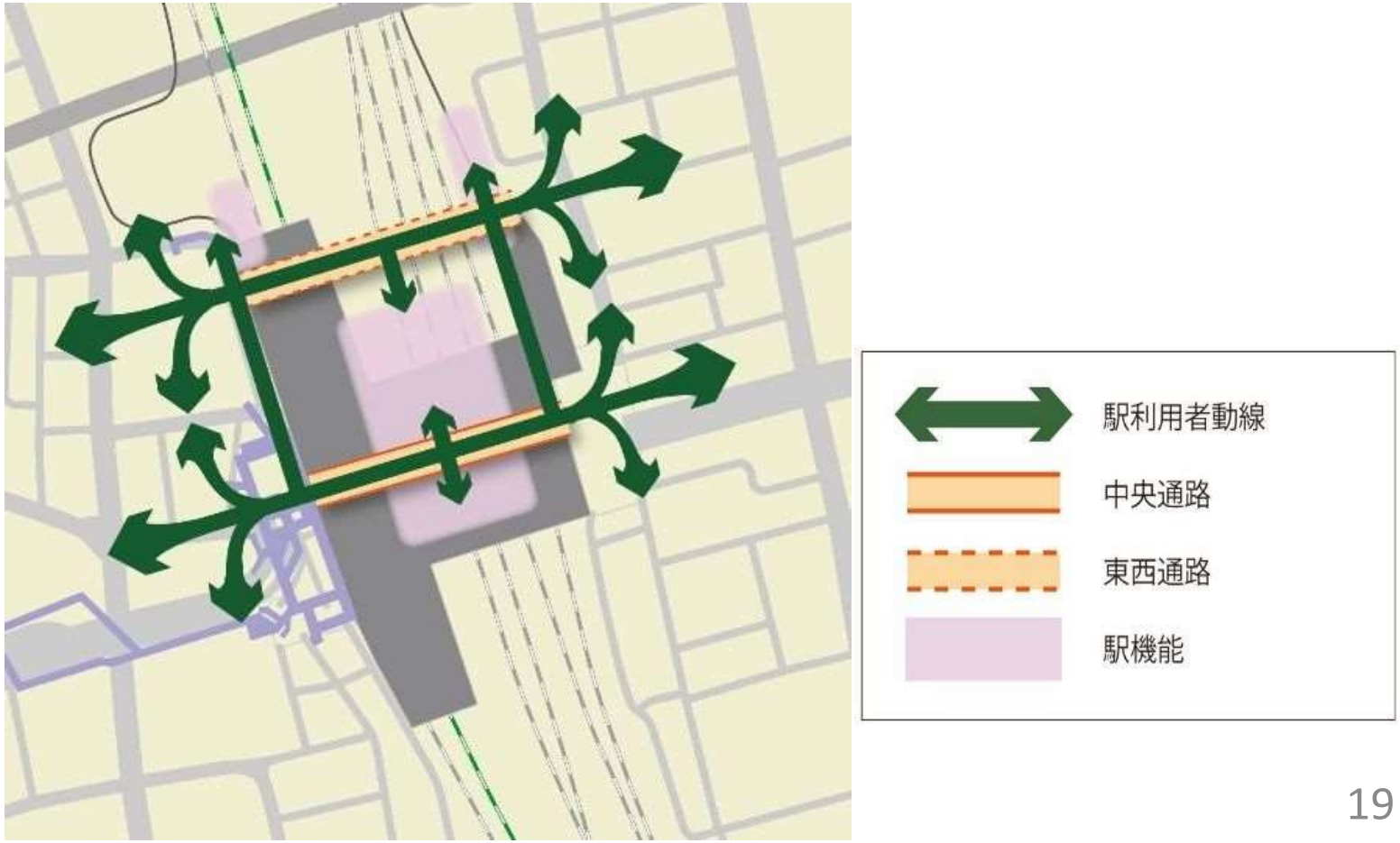


①東西通路の整備と合わせた駅機能の高度化

○東西通路の整備に合わせた乗換改善を実施（回遊性の向上、災害時の混雑緩和、代替路の確保等）

○ラッシュ時における混雑が著しいホームの拡幅・改良やホームドア設置等

［駅機能の高度化のイメージ（例）］



実現のための方策

概要版P11

構想の推進

パブリックコメント → 構想策定 → 構想の実現に向けた取り組み